

## &lt; 事業所自己評価\_様式例 &gt;

## 【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 博愛福社会	事業所名	ゆとり庵北越谷 看護小規模多機能型居宅介護
所在地	(〒 343 - 0035 ) 埼玉県越谷市大字大道 643 番地		

## 【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2024 年 1 月 5 日	従業者等自己評価 実施人数	( 14 ) 人	※管理者を含む
----------------	-------------------	------------------	----------	---------

※ 当該様式は、「事業所自己評価」の結果を整理するとともに、その結果を運営推進会議へ報告するための様式として使用します。また、運営推進会議において得られた主なご意見等は、次ページ以降の「運営推進会議における意見等」の欄にメモします。

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
			自己評価	運営推進会議における意見等
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	情報共有のシステムはあるが、業務内容のばらつきがある 今年度 BCP 策定できているため、周知や訓練に活用し実用性のあるものへ昇華していく	マニュアルの見直し、変更があった場合は直ぐに修正をおこなった。 BCP を閲覧できるように周知した。	新規の職員も入社し、手順書を見ながら指導し活用をおこなえている。 BCP をもとにした訓練は委員会や防災で取り入れいていく。	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	担当者会議やモニタリングの件数は増えている。 ケアマネと一緒に取り組む機会が増えている。	件数は増えてきているので引き続き継続する。	
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	看護師は主治医とのやりとりはできている、緊急時の対応は今まで訪問看護の兼務者が対応していたが今年度からほとんど協力を得られていない。現状対応できる者が一人のため対応できる職員の雇用をすすめる	看多機専従の職員は3名から5名となり人員の確保ができている。医師との連携も往診に立ち会うなど必要におうじて対応した。	医師との調整など直接立ち会う機会が増えたことで連携は強化されているため引き続き継続していく。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	人工呼吸器装着者の受け入れを今年初めて受け入れられた。送迎の対応など課題があるため、フィードバックしながら新規の受け入れもおこな	看取りはおこなえている。 BIPAP などの器械を装着した利用者様の受け入れもできている。	看取りの方はご家族様より感謝のお言葉を頂けており励みになっている。受け入れ機会があれば積極的におこなっていく。

		える体制を作る。吸引や看取りも積極的に受け入れをしている。件数を増やすために看護師の増員をおこなう。家族へ指導も行える体制の強化をおこなう			
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)	<p>目標が達成されていない点においては計画の修正など早期に関わる必要がある、状態の変化においても認知できるまで時間は要するため適宜モニタリングをおこない目標をその状況に合わせて修正していく。</p> <p>医療措置や看取りに関しては訪問看護の提供回数が少ない面もあり家族と看護師の関わりが希薄している一面がある。安心感を与えるために訪問回数を増やす。</p>	<p>訪問看護の件数はあまり増えていないが、看護師が直接訪問しご家族の相談にのる機会をサービスに組み込んだ。</p>	<p>訪問看護を行う事で家族の相談に乗り安心感は提供されてきていると思います。</p> <p>更に訪問看護の件数は増やしていき、家族も安心して利用できる環境を提供できるようにしていきたい。</p>		

※「進捗評価（運営推進会議における意見等）」には、運営推進会議の場で得られた主なご意見等をメモします。その他の欄は、事業所が記載します

■ 「今回の改善計画（案）」および「運営推進会議における評価」

項目	改善計画（案）	運営推進会議における意見等	
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念が浸透できていない現状がある、理念を基に当事業所の方針を明確にして掲示することで全ての職員へ周知をおこなっていく。</li> <li>・情報共有のシステムはあるが、業務内容のばらつきがありマニュアルの整備ができていないため手順書などの更新を随時行い習慣化する。</li> <li>・今年度 BCP 策定できているため、周知や訓練に活用し実用性のあるものへ昇華していく。</li> </ul>		
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントやモニタリングが不足している。また、状態に応じた計画変更がなされていないため、モニタリングの回数を増やし計画へ反映させる。</li> <li>・口頭や申し送り用紙への書置きが重視されていることで計画を閲覧していない、見やすい位置へ変更する。</li> </ul>	
	<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)</p>	<p>看護師は主治医とのやりとりはできている、緊急時の対応は今まで訪問看護の兼務者が対応していたが今年度からほとんど協力を得られていない。現状対応できる者が一人のため対応できる職員の雇用をすすめる。</p>	
	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)</p>	<p>人工呼吸器装着者の受け入れを今年初めて受け入れられた。送迎の対応など課題があるため、フィードバックしながら新規の受け入れもおこなえる体制を作る。</p> <p>吸引や看取りも積極的に受け入れをしている。件数を増やすために看護師の増員をおこなう。家族へ指導も行える体制の強化をおこなう。</p>	<p>麻薬の持続投与の受け入れ実績はありますか？ 今までに受け入れはなし、近場であれば引き受けていく予定ありと返答する。</p>

<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)</p>	<p>目標が達成されていない点においては計画の修正など早期に関わる必要がある、状態の変化においても認知できるまで時間は要するため適宜モニタリングをおこない目標をその状況に合わせて修正していく。</p> <p>医療措置や看取りに関しては訪問看護の提供回数が少ない面もあり家族と看護師の関わりが希薄している一面がある。安心感を与えるために訪問回数を増やす。</p>	<p>訪問看護提供回数は実際どれぐらいになっているのか？</p> <p>提供回数は1日1件か2件程度、今後の回数は1日3-5件を目標に受け入れを増やしていきたい。</p> <p>通所の定員問題もあるため通所だけで対応するのは難しい。</p>
---------------------------------	--	--

※「改善計画(案)」には、事業所としての案を記載します。「運営推進会議における意見等」は、運営推進会議の場で得られた主なご意見等をメモします

■ 評価表 [事業所自己評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>I 事業運営の評価 [適切な事業運営]</b>							
<b>(1) 理念等の明確化</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	0	1	0	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」</li> <li>✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」</li> <li>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</li> </ul>
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	0	0	1	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します</li> <li>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(2) 人材の育成</b>							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	0	0	1	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します</li> <li>✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」</li> <li>✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」</li> </ul>
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・ラダーは整備されているが、対象となる正社員が少ない。 ・現場レベルでの落とし込みはできていない。					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	0	0	1	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します</li> </ul>
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・月1回の研修を行っている ・研修の機会は設けられているが、実際は研修に出せる時間の確保が難しい					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	0	0	1	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます</li> <li>✓</li> </ul>
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・十分な時間調整はできていないが各々で情報共有をおこなっている。 ・全体ミーティングの回数が少ない。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(3) 組織体制の構築</b>							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている	0	0	1	0		✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・サービス提供への反映が課題である ・助言等はスタッフへ伝達している。					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	0	0	1	0		✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・一部の職員に残業の偏りがある。帰れる人帰れない人の差がある。 ・非常勤の発言の機会が少ないため改善を要する。 ・休憩、残業の配慮あり					
<b>(4) 情報提供・共有のための基盤整備</b>							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	0	0	1	0		✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・情報を随時送りすることができる ・日々の連絡をこまめに行えている ・紙ベースも活用しながら共有することができるが抜けもあるのが現実					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(5) 安全管理の徹底</b>							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等 および職員の安全確保のため、 事業所においてその具体的な 対策が講じられている	0	1	0	0		<p>✓ 「各種の事故に対する予防・対策」 の充足度を評価します</p> <p>対策が求められる事項としては、例 えば「医療・ケア事故の予防・対策」、 「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対 策」、「個人情報保護」などが考えられ ます</p>
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、 サービス提供が継続できるよ う、職員、利用者、関係機関の 間で、具体的な対応方針が共有 されている	0	0	1	0		<p>✓ 「緊急時におけるサービス提供のた めの備え」について、充足度を評価 します</p> <p>✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、 「連絡先リストの作成」、「医療材料 などの確保」、「災害時ケアのマニ ュアル化」などが考えられます</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>Ⅱ サービス提供等の評価</b>							
<b>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</b>							
<b>(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成</b>							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や 家族等介護者の状況等を含む、 利用者等の 24 時間の暮らし全 体に着目したアセスメントが 行われている	0	7	7	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし 全体に着目したアセスメント」の充 足度を評価します</li> <li>✓ ケアが包括的に提供される看護小規 模多機能型居宅介護においては、家 族等も含めた 24 時間の暮らし全体 に着目したアセスメントが必要とな ります</li> </ul>
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの 視点から実施したアセスマン トの結果が、両職種の間で共有 されている	1	7	6	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職間でのアセスマン ト結果の共有」について、充足度を 評価します</li> <li>✓ 介護・看護の両面から行われたアセ スマントの結果は、その後のつき合 わせなどを通じて、両職種で共有さ れることが望ましいといえます</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている	1	8	5	0		<p>✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます</p>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <p>・家族利用者の考えを情報収集できているがその考えを含めた計画書を作成できていない場合がある、また共有に関しては口頭での伝達があり不足している。</p>					
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	0	9	5	0		<p>✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます</p>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <p>・日常生活動作の機能向上を含めた計画が立てられているが計画書を見ていないスタッフがいるため行動が伴っていない。</p>					
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	0	9	5	0		<p>✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です</p>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <p>・リスクに関してはNSからの情報をもとに行えている</p> <p>・利用者の状況変化予測やリスク管理を含めた計画が立てられている</p> <p>・リスク管理までまだ評価が乏しい</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践</b>							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	1	8	5	0		<p>✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します</p>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々変化が多い中で早期の把握がまだ乏しい</li> <li>・多職種からの情報収集・リハビリ評価結果から状態変化した際すぐに目標の再設定をするようにする</li> <li>・利用者の変化早期に把握が出来ている</li> <li>・計画にも反映している</li> <li>・計画に反映できているかも分からない</li> </ul>					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	1	8	5	0		<p>✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です</p>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問した際利用者家族の状況を多職種に都度伝達し相談している</li> <li>・利用者が自宅で過ごせるよう支援している</li> <li>・訪問看護の介入が少ない</li> <li>・生活状況の変化を把握できる</li> <li>・生活状況の把握がまだ不十分である</li> <li>・家族と相談しながら招請している所をよく見る</li> </ul>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている	1	8	5	0		✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・看護師が主治医と情報交換は行っている ・各職種との情報共有が出来ている ・必要時リハビリに対しての情報を伝える ・関係多職種との情報共有が出来ている					
<b>(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供</b>							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	2	7	5	0		✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・介護職・看護職の役割が分かれている ・職域を考えた柔軟な役割分担は不十分だと思う ・役割分担はできているが柔軟な対応はできていないことが多い					
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	2	7	5	0		✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・日々のケアから情報をお互いに共有し対応に徹している ・介護職と看護職で情報共有し連携が取れている ・申し送りが連動していない					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	0	9	5	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します</li> <li>✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予後予測の観点をざっくりと情報を送られることもあるが何か起きてからというケースもある</li> <li>・ 情報不足</li> <li>・ 看護職から介護職に情報提供や提案等を行っている</li> </ul> 情報提供はその都度変更ある時にすぐに伝わり対応されている					
<b>(4)利用者等との情報及び意識の共有</b>							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	1	8	5	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特徴等を分かりやすく理解することがまだ不足です</li> <li>・ 利用者・家族への説明が出来ている</li> <li>・ 説明をケアマネや家族には伝えている</li> <li>・ 理解はまだ不十分</li> <li>・ 家族に説明はしているが分かりにくいケースも目だつ</li> </ul>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	0	9	5	0		✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・説明はしているが、理解を得られているかは不明					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	2	8	4	0		✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・具体的には分からないことも看護師から説明していることがある ・写真や実践にして伝えている ・分かりやすく説明が出来ているまた、理解を得られている 指導は段階を踏み分かりやすく説明し理解を得ている					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	0	10	4	0		✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・希望や意見を把握しサービスへ反映している ・利用者の希望・意向をサービス提供に反映している ・利用者本人の希望やその時の対応を変えながら行っている					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができる	1	8	5	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します</li> </ul>
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種やケアマネと相談している</li> <li>・利用者の変化を早期に発見し在宅生活の継続について利用者と相談ができる</li> </ul>					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	0	7	7	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します</li> <li>✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」</li> </ul>
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画の説明をしっかりと記録へ反映させている</li> <li>・終末期の説明記録が出来ている</li> <li>・関わる情報をケアマネ通じて伝達されている</li> <li>・記録は十分ではないがスタッフが記録を残すということを意識している</li> </ul>					
<b>2. 多機関・多職種との連携</b>							
<b>(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供</b>							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	1	7	6	0	A様：どの事業所を紹介したらよいか迷うことがあり、家族と一緒に説明していただけると助かります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます</li> </ul>
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タイミング次第になるが退院前に在宅の確認等を行えている</li> <li>・病院・施設との連携が出来ている</li> <li>・病院から在宅への移行が職種間で共有する時間が必要なためスムーズに行えていない</li> </ul>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができる	1	8	5	0	A様：看護師が良く連絡してくれているので、情報共有できていて助かっています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します</li> <li>✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です</li> </ul>
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	0	11	3	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(2) 多職種との連携体制の構築</b>							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	0	2	8	4		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します</li> <li>✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」</li> <li>✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です</li> </ul>
<b>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画</b>							
<b>(1) 地域への積極的な情報発信及び提案</b>							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている	0	2	6	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている	0	2	4	8	B様：ゆとり庵内でのケアマネさんが増えてくれるといいですね。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です</li> <li>✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。</li> <li>✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます</li> </ul>
<b>(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している	0	3	3	8		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください</li> <li>✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	7	3	4	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・24 時間看護師在中受け入れ態勢が取れている</li> <li>・積極的に受け入れている</li> <li>・日中・夜間問わず看護が行える環境になっており受け入れも行えている</li> </ul>					
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	3	8	1	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在受け入れているが送迎に関しては二人体制のため人員の調整が難しい。 多くても2名が限界。</li> </ul>					
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	6	7	2	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体制が整っており受け入れている</li> <li>・受け入れている・連携も行えている</li> </ul>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画</b>							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している			1			<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます</li> <li>✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」</li> </ul>
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	1					<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます</li> <li>✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている				1		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます</li> <li>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</li> </ul>
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている			1			<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます</li> <li>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
<b>Ⅲ 結果評価</b>				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 3 ・家族や本人の目標は達成できている場合もあるが、意向の変化や状態の変化により必ずしも目標が達成できているとは言えないが、退院直後の受け皿とはなれている。		✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 2. 医療処置が必要な利用者を優先的に引き受けている、その都度状況に応じた対応ができているため、医療行為を目的でのサービス終了は少ない。		✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>5. 看取りの希望者はいない</p> <p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <p>4.今年度は看取り目的で受け入れたが、容態が悪化した際に意向変化があり入院したケースが何件かある、また初めから看取りは病院だがそれまでサービスを利用したいという利用者が多かった。</p> <p>家族と密な関係を構築していく必要がある。</p>		<p>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p> <p>✓</p>